

<彫刻の部>

(県指定文化財・重要美術品を重要文化財に)

もくぞうやくしによらいりゆうぞう
木造薬師如来立像

く
一軀

【大きさ】 像高 167.2 cm

【所有者】 宗教法人西方寺^{さいほうじ} (宇陀市榛原山辺^{やまべさん}三496)

納入品から^{こうあん}弘安元年(1278)に二千を超える^{けちえんしや}結縁者を募って「一日薬師」すなわち一日のうちに^{ぞうりゆう}造立されたことが判明する等身の薬師像。この種の「一日造立仏」は文献から多くの造像例^{ぞうぞう}が知られているが、納入品の記載からはっきりと^{のうにゆうひん}そのことが判明する希有の遺品であり、造像儀礼としての仏像製作のありようをうかがう上で貴重である。

(鎌倉時代)



写真提供：文化庁

<彫刻の部>

(未指定文化財を重要文化財に)

もくぞうじゆういちめんかんのんりゆうぞう
木造十一面観音立像

く
一軀

【大きさ】 像高 185.3 cm

【所有者】 宗教法人當麻寺（葛城市當麻1263）

国宝の曼荼羅堂内の織殿と称される一室に安置される等身像。台座蓮肉まで櫨の一材より彫出する古式な構造になり、表情は穏やかだが彫法は鋭さと粘りをとどめ、9世紀末頃の作とみられる。

頂上仏面が亡失し天衣垂下部が後補となるが、本体はほぼ完存し、当初の彩色文様が遺るなど当代の保存良好な作例として評価される。

(平安時代)



写真提供：奈良国立博物館

<彫刻の部>

(県指定文化財を重要文化財に)

もくぞうこんごうりきしりゆうぞう
木造金剛力士立像 二軀
こうせい 康成作

【大きさ】 像高 ^{あざよう}阿形 505.8 cm
^{うんぎよう}吽形 506.2 cm

【所有者】 宗教学人 金峯山寺 (吉野郡吉野町大字吉野山2498)

国宝の二王門^{におうもん}に安置される阿吽^{あうんいつい}一對の金剛力士像^{えんげん}。延元3年(1338)から翌年にかけて南都大仏師康成^{こうせい}によって造られた。5メートルを超える像高は国宝の東大寺南大門像に次ぐもので、当代の記念碑的大作である。

(南北朝時代)



(吽形)



(阿形)

写真提供：文化庁

<古文書の部>

(市指定文化財を重要文化財に)

くろぞうし
黒草子

一冊

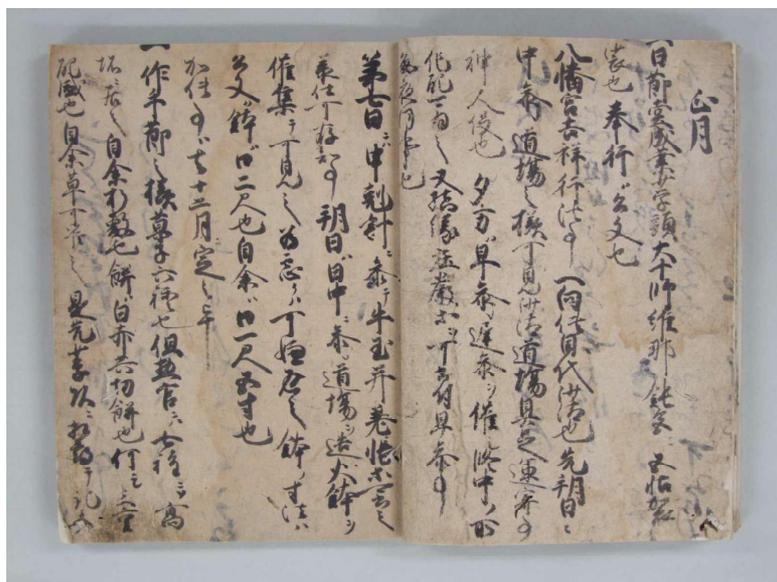
【大きさ】縦 26.1 cm 横 19.6 cm

【所有者】宗教法人薬師寺（奈良市西ノ京町457）

『黒草子』は、中世薬師寺における文書の文例、^{ねんちゆうぎようじ}年中行事などを記した記録であり、^{こうえい}康永2年（1343）に継禪が書写した前半と、その後、書き継がれた後半とからなる。全体にわたり紙背文書が確認でき、内容的にまとまりを持っている文書としても、^{なんと}南都寺院史研究上に重要な史料である。

本書は、中世薬師寺の行事や組織を具体的に知り得る基本史料であり、中世を通じて利用された寺院記録として学術的価値が高い。

(南北朝時代～室町時代)



写真提供：薬師寺